

## ロシアで見たものは

### 1. 笑わないロシア人

入国管理局管理事務所、税関、警察などの公務員が笑顔をつくらないのは職務柄仕方がないとして航空会社、ホテルの受付係まで、客に笑顔は見せない。挨拶はしない。列車の車掌、飛行機のアテンダントも自分の職務は果たすが無言で、仏頂面。これは国民性が共産主義の残滓か。

### 2. 大きな重い鉄道車輛と太いレール

車両は大型で、台車は重そうな鉄の塊。レールは新幹線のレールより太く、軌道の幅が国際標準軌道（1435mm）より85mm幅広い広軌（1520mm）。外国からの侵入を防止するため西欧とは異なる幅とした。列車はまるでマンモスが大草原を闊歩するイメージだ。

### 3. 低品質の消費財

トイレの紙、土産店の包装紙、領収書の用紙などよくも粗悪な紙の材料があるものだと感心した。この国は材木・パルプの輸出国なのに。紙は文明の尺度と言われている。終戦直後アメリカの紙製品が良質なのに驚いた。当時これでは日本は戦争に負けるはずだと思った。

また街中を走る乗用車は圧倒的に日本製中古車。「かな・漢字」がそのまま残っている。これでブランドを誇示するのか。ただしバス・トラックは韓国製かドイツ製が多い。重・産業車輛は国産。故障車が道路脇に旗を立てて停車していた。おそろおそろ銘柄を覗いたら韓国製なので一安心とケチな愛国心と偏見に自嘲した。

### 4. 高い芸術・文化水準

伝統的な音楽、舞踊、文学、工芸、建築では厚みを感じさせる。今回バレエダンスとロシアダンスを鑑賞した。ここでも共産主義と資本主義の葛藤があるようだ。国家の厚い保護から自由世界の競争社会への切り替えで期待と不安が交錯する。

### <結論> BRICSの一員は不当

ロシアが BRICS の一員ではヘビー級がミドル級扱いされているのと同じ、「準 G8」が座りがよい。人口、GDP、軍事力を含め世界における存在感は絶大だ。経済、金融面では資本主義を導入したが、しばらく若葉マーク。最近のウクライナ問題の対応では、国際間の秩序を無視した領土への執着心、資源を背景に強硬姿勢が目立つ。